

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成29年3月9日(2017.3.9)

【公開番号】特開2015-228554(P2015-228554A)

【公開日】平成27年12月17日(2015.12.17)

【年通号数】公開・登録公報2015-079

【出願番号】特願2014-112685(P2014-112685)

【国際特許分類】

H 04 L 25/03 (2006.01)

H 04 L 25/02 (2006.01)

H 04 B 3/04 (2006.01)

【F I】

H 04 L 25/03 C

H 04 L 25/02 S

H 04 B 3/04 A

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月31日(2017.1.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0044】

出力部24Aは、エンファシス制御部23から供給された制御信号に基づいて、信号SIGAに対してプリエンファシスを行うものである。出力部24Bは、エンファシス制御部23から供給された制御信号に基づいて、信号SIGBに対してプリエンファシスを行うものである。出力部24Cは、エンファシス制御部23から供給された制御信号に基づいて、信号SIGCに対してプリエンファシスを行うものである。出力部24A, 24B, 24Cの構成は、出力部22A, 22B, 22Cと同様である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

シンボルが“+x”から“+y”へ遷移する場合には、信号生成部11は、図8に示したように、信号EA, EB, ECを“0”, “1”, “1”にする。これにより、送信部20は、図9Bに示したように、信号SIGBに対してプリエンファシスを行い、低レベル電圧VLから、高レベル電圧VHよりも高い電圧に遷移させるとともに、信号SIGCに対してプリエンファシスを行い、中レベル電圧VMから、低レベル電圧VLよりも低い電圧に遷移させる。このとき、送信部20は、信号SIGAに対してはプリエンファシスを行わず、高レベル電圧VHから中レベル電圧VMに遷移させる。すなわち、信号SIGAは電圧状態SHから電圧状態SMに遷移するが、送信部20は、この信号SIGAに対してはプリエンファシスを行わない。これにより、図10Bに示したように、差分ABCは、プリエンファシスを行わない場合に比べて、正から負へより早く遷移し、差分BCは、プリエンファシスを行わない場合に比べて、負から正へより早く遷移する。また、差分CAは負の状態を維持する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0066

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0066】

シンボルが“+x”から“-y”へ遷移する場合には、信号生成部11は、図8に示したように、信号EA, EB, ECを“0”, “1”, “1”にする。これにより、送信部20は、図9Cに示したように、信号SIGBに対してプリエンファシスを行い、低レベル電圧VLから、低レベル電圧VLよりも低い電圧に遷移させるとともに、信号SIGCに対してプリエンファシスを行い、中レベル電圧VMから、高レベル電圧VHよりも高い電圧に遷移させる。すなわち、信号SIGBは電圧状態SLを維持するが、送信部20は、この信号SIGBに対してプリエンファシスを行う。このとき、送信部20は、信号SIGAに対しては、プリエンファシスを行わず、高レベル電圧VHから中レベル電圧VMに遷移させる。すなわち、信号SIGAは電圧状態SHから電圧状態SMに遷移するが、送信部20は、この信号SIGAに対してはプリエンファシスを行わない。これにより、図10Cに示したように、差分CAは、プリエンファシスを行わない場合に比べて、負圧から正圧へより早く遷移する。また、差分ABは正の状態を維持し、差分BCは負の状態を維持する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

シンボルが“-x”から“+y”へ遷移する場合には、信号生成部11は、図8に示したように、信号EA, EB, ECを“0”, “1”, “1”にする。これにより、送信部20は、図11Bに示したように、信号SIGBに対してプリエンファシスを行い、高レベル電圧VHから、高レベル電圧VHよりも高い電圧に遷移させるとともに、信号SIGCに対してプリエンファシスを行い、中レベル電圧VMから、低レベル電圧VLよりも低い電圧に遷移させる。すなわち、信号SIGBは電圧状態SHを維持するが、送信部20は、この信号SIGBに対してプリエンファシスを行う。このとき、送信部20は、信号SIGAに対してはプリエンファシスを行わず、低レベル電圧VLから中レベル電圧VMに遷移させる。すなわち、信号SIGAは電圧状態SLから電圧状態SMに遷移するが、送信部20は、この信号SIGAに対してはプリエンファシスを行わない。これにより、図12Bに示したように、差分CAは、プリエンファシスを行わない場合に比べて、正から負へより早く遷移する。また、差分BCは正の状態を維持し、差分ABは負の状態を維持する。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0075

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0075】

このように、送信装置10は、信号SIGA～SIGCのうち、電圧状態SL, SMから電圧状態SHに遷移する信号に対してプリエンファシスを行うとともに、電圧状態SH, SMから電圧状態SLに遷移した信号に対してプリエンファシスを行う。また、送信装置10は、信号SIGA～SIGCのうち、電圧状態SL, SHを維持する信号に対してもプリエンファシスを行う。一方、送信装置10は、信号SIGA～SIGCのうち、電圧状態SL, SHから電圧状態SMに遷移する信号に対してはプリエンファシスを行わず、また、電圧状態SMを維持する信号に対してもプリエンファシスを行わない。

【手続補正6】**【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0103**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0103】**

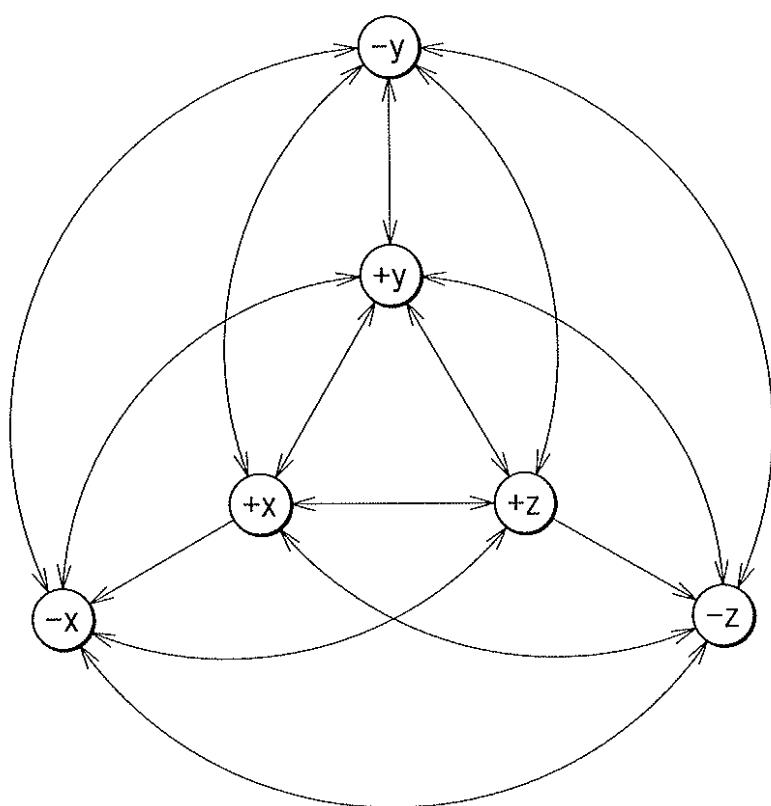
論理回路120は、論理積回路121～125を有している。論理積回路121の第1の入力端子には比較部101の出力信号が供給され、第2の入力端子には比較部112の出力信号が供給され、第3の入力端子には、LUT19Bに含まれる、シンボルCS = “+x”およびシンボルNS = “-x”に対応する信号EEの値（この例では“0”）が供給される。すなわち、比較部101は、現在のシンボルCSがシンボル“+x”である場合に“1”を出力するものであり、比較部112は、次のシンボルNSがシンボル“-x”である場合に“1”を出力するものであるため、第3の入力端子には、シンボルCS = “+x”およびシンボルNS = “-x”に対応する信号EEの値が供給される。同様に、論理積回路122の第1の入力端子には比較部101の出力信号が供給され、第2の入力端子には比較部113の出力信号が供給され、第3の入力端子には、LUT19Bに含まれる、シンボルCS = “+x”およびシンボルNS = “+y”に対応する信号EEの値（この例では“1”）が供給される。論理積回路123の第1の入力端子には比較部101の出力信号が供給され、第2の入力端子には比較部114の出力信号が供給され、第3の入力端子には、LUT19Bに含まれる、シンボルCS = “+x”およびシンボルNS = “-y”に対応する信号EEの値（この例では“0”）が供給される。論理積回路124の第1の入力端子には比較部101の出力信号が供給され、第2の入力端子には比較部115の出力信号が供給され、第3の入力端子には、LUT19Bに含まれる、シンボルCS = “+x”およびシンボルNS = “+z”に対応する信号EEの値（この例では“1”）が供給される。論理積回路125の第1の入力端子には比較部101の出力信号が供給され、第2の入力端子には比較部116の出力信号が供給され、第3の入力端子には、LUT19Bに含まれる、シンボルCS = “+x”およびシンボルNS = “-z”に対応する信号EEの値（この例では“0”）が供給される。

【手続補正7】**【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0136**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0136】**

レジスタ64は、LUT59を記憶するものである。このLUT59は、例えば、受信装置60の電源投入時に、図示しないアプリケーションプロセッサから、このレジスタ64に書き込まれるようになっている。

【手続補正8】**【補正対象書類名】**図面**【補正対象項目名】**図4**【補正方法】**変更**【補正の内容】**

【図 4】



【手続補正 9】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 9 A

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 9 A】

